

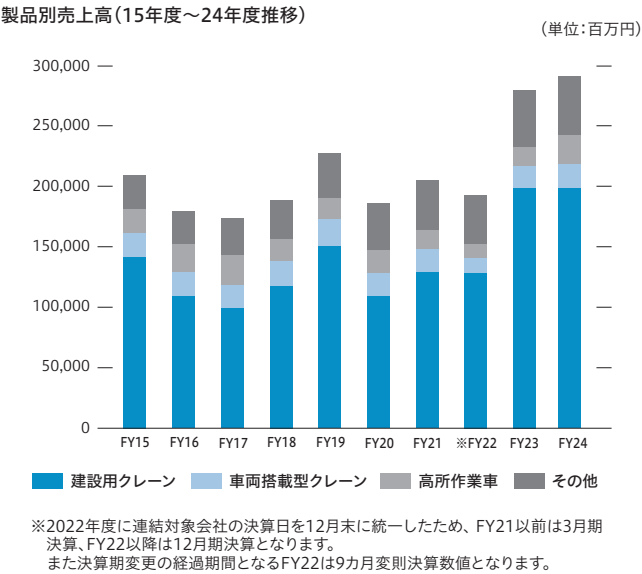
BUSINESS SEGMENTS

事業セグメント

製品別売上高

製品別売上高は、車両搭載型クレーンが194億3千3百万円（前期比108.0%）、高所作業車が242億8千3百万円（前期比149.6%）、その他の製品が484億7千4百万円（前期比103.6%）と前期に比べて売上高が増加しました。建設用クレーンの売上高は1,993億8百万円（前期比100.0%）とほぼ横ばいでした。この結果、2024年度の売上高は過去最高となる2,915億円（前期比104.0%）となりました。

	23年 1-12月	24年 1-12月	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	199,232	199,308	76	0.0%
車両搭載型クレーン	17,996	19,433	1,437	8.0%
高所作業車	16,230	24,283	8,052	49.6%
その他	46,806	48,474	1,667	3.6%
合計	280,266	291,500	11,233	4.0%

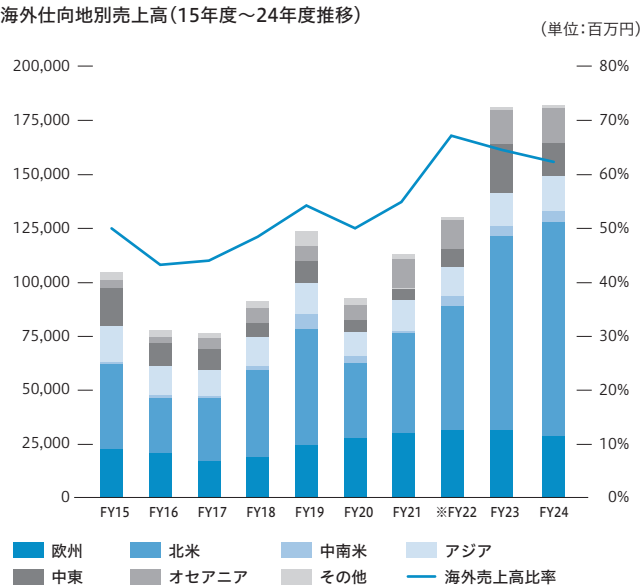


仕向地別売上高

北米990億7百万円（前期比110.6%）、中南米54億6千8百万円（前期比116.5%）、アジア159億3千万円（前期比104.5%）、オセアニア157億9千8百万円（前期比103.1%）、その他の地域16億5千3百万円（前期比107.1%）は前期を上回る売上高でした。欧州285億3百万円（前期比90.4%）、中東152億9千2百万円（前期比67.4%）では売上高が減少しました。日本においては1,098億4千5百万円（前期比110.2%）と売上高は増加しました。海外売上高比率は、62.3%（前期64.4%）となりました。

	23年 1-12月	24年 1-12月	比較増減	
			金額	増減率
欧州	31,520	28,503	-3,016	-9.6%
北米	89,535	99,007	9,472	10.6%
中南米	4,692	5,468	775	16.5%
アジア	15,250	15,930	680	4.5%
中東	22,692	15,292	-7,400	-32.6%
オセアニア	15,320	15,798	477	3.1%
その他	1,544	1,653	109	7.1%
小計(海外計)	180,556	181,654	1,098	0.6%
日本	99,710	109,845	10,135	10.2%
合計	280,266	291,500	11,233	4.0%
海外売上高比率	64.4%	62.3%		

※その他には、アフリカ、CISを含んでいます。



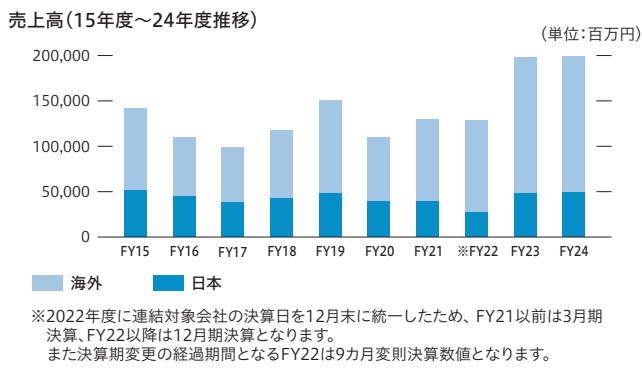
建設用クレーン

01 Mobile Cranes

》売上高

日本向け売上高は、需要が減少する中、販売に注力した結果、500億4千8百万円(前期比101.7%)となりました。海外向け売上高は、需要が増加したものの、1,492億6千万円(前期比99.5%)となりました。この結果、建設用クレーンの売上高は1,993億8百万円(前期比100.0%)となりました。

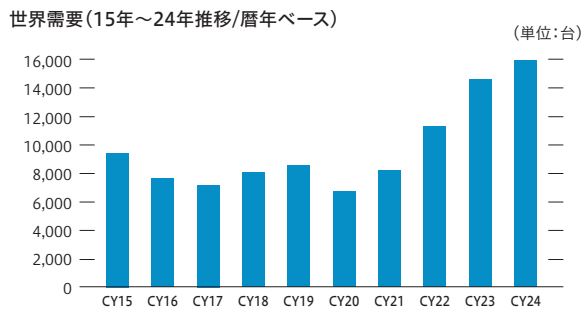
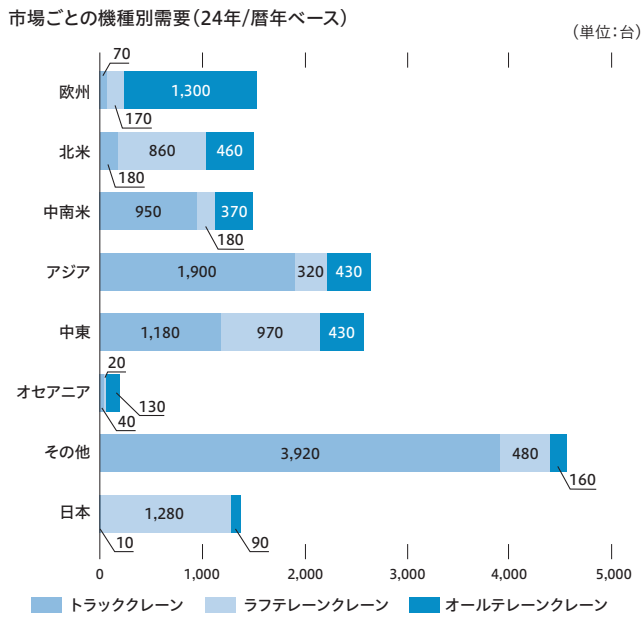
	(単位:百万円)			
	23年 1-12月	24年 1-12月	比較増減 金額	増減率
日本	49,218	50,048	830	1.7%
海外	150,014	149,260	-754	-0.5%
合計	199,232	199,308	76	0.0%



》需要とシェア(台数ベース)

需要は中南米と中東で大幅に増加し、2024年の世界全体(中国を除く)の建設用クレーン需要は、前期比109.1%と増加しました。タダノ製品の世界全体におけるシェアは、前期の15%から2ポイント減少した13%となりました。

	需要			シェア	
	23年 1-12月	24年 1-12月	増減率	23年 1-12月	24年 1-12月
欧州	1,470台	1,540台	4.8%	9%	6%
北米	1,480台	1,500台	1.4%	40%	40%
中南米	880台	1,500台	70.5%	6%	2%
アジア	2,720台	2,650台	-2.6%	6%	6%
中東	1,840台	2,580台	40.2%	15%	8%
オセアニア	470台	190台	-59.6%	20%	31%
その他	4,270台	4,560台	6.8%	1%	0%
海外計	13,130台	14,520台	10.6%		
日本	1,450台	1,380台	-4.8%	62%	61%
合計	14,580台	15,900台	9.1%	15%	13%



※数値は当社推計(10台単位にて四捨五入) ※その他には、アフリカ、CISを含んでいます。
※ロシア国産は含んでいません。 ※中国国産の輸出は含んでいます。
※中国国産の中国市場向けは含んでいません。 中国市場における中国国産の需要推移は次のとおりです。
CY15:約9千台、CY16:約9千台、CY17:約2万台、CY18:約3万2千台、CY19:約4万2千台、
CY20:約5万4千台、CY21:約4万6千台、CY22:約2万2千台、CY23:約1万9千台、CY24:約1万1千台



》製品紹介

オールテレーンクレーン

高速道路や橋梁工事などのインフラ整備、大型プラントやビルといった建築やメンテナンス工事などの現場で活躍する大型クレーンです。舗装道路から不整地まであらゆる路面に適応し、大きなクレーン能力を持ちながら、後輪もしくは全輪軸操舵機能により小回り性にも優れています。



ラフテレーンクレーン

タダノの技術の粋を集めた主力製品。一つの運転席で走行とクレーン操作が行える自走式クレーンです。不整地や軟弱な地盤でも走行ができるほか、その小回り性を活かし、市街地や狭隘地などの現場でも活躍しています。海外では主に大規模プラントの建設・メンテナンスに使われています。



トラッククレーン

専用または汎用トラックに架装したクレーンです。走行用とクレーン用の運転室が個別に設けられています。トラック同様迅速に作業現場まで自走し、クレーン作業を開始します。海外では高速走行性をもつ大型クレーンとして使われ、メンテナンスの容易性、コストパフォーマンスの高さから北米、新興国で高く評価されています。



伸縮ブーム式 クローラクレーン

広大なアメリカで、泥濘地を含めたさまざまな環境で効率よく作業するように開発されました。クローラキャリヤの低重心の利点を活かし、高さに余裕のないトンネルやプラント、オイルタンクなどの設置現場で荷を吊ったまま走行し、その強さを発揮します。



ラチスブーム式 クローラクレーン

より大きな吊り上げ能力を必要とする現場に適したクレーンです。他のタイプのクレーンよりも大きな吊り上げ能力(最大3,200トン)を備えており、高負荷時にも優れた操作性を保持することができます。その大きさに関わらず、分解することで輸送が容易となり、高まるクリーンエネルギー需要を背景に、風力発電関連工事をはじめ、世界各地で活躍の場を広げています。



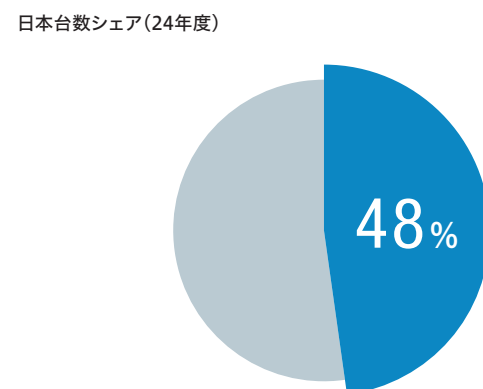
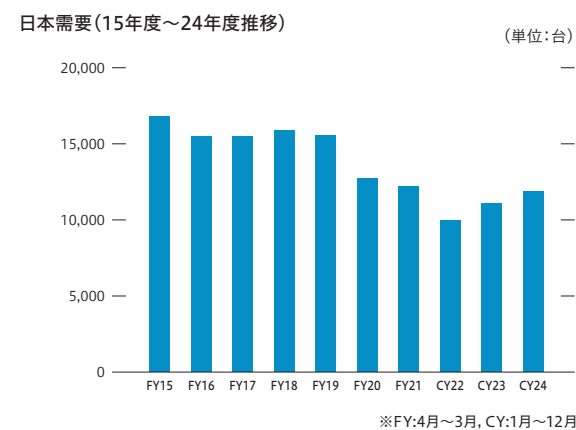
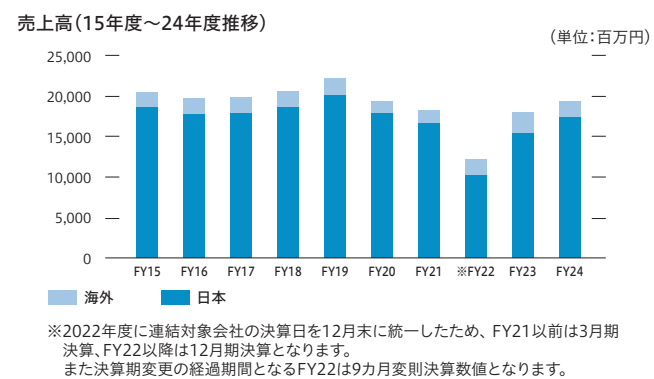
車両搭載型クレーン 02 Truck Loader Cranes



》売上高・日本台数シェア

日本向け売上高は、トラックシャシ供給が改善し、需要が増加する中、174億7千6百万円（前期比112.1%）となりました。海外向け売上高は、19億5千6百万円（前期比81.1%）となりました。この結果、車両搭載型クレーンの売上高は194億3千3百万円（前期比108.0%）となりました。

	23年 1-12月	24年 1-12月	比較増減	
			金額	増減率
日本	15,583	17,476	1,892	12.1%
海外	2,412	1,956	-455	-18.9%
合計	17,996	19,433	1,437	8.0%



》製品紹介



TM-ZE360

カーゴクレーン



TM-ZX294

運輸業や造園業、建設業など、さまざまな業種のお客さまの荷役作業に使われている一番身近なクレーンです。トラックキャブの後ろなどに架装したもので、幅広い種類のトラックへの架装と豊富なクレーンのラインナップを取り揃えて多様なニーズに応えています。

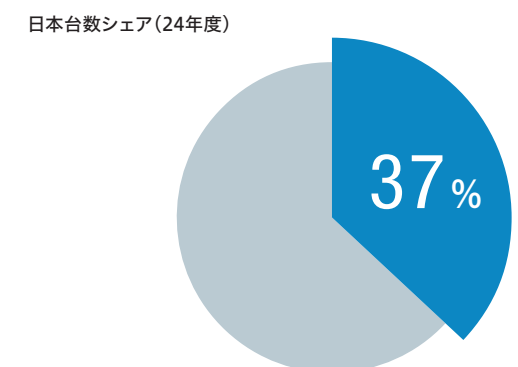
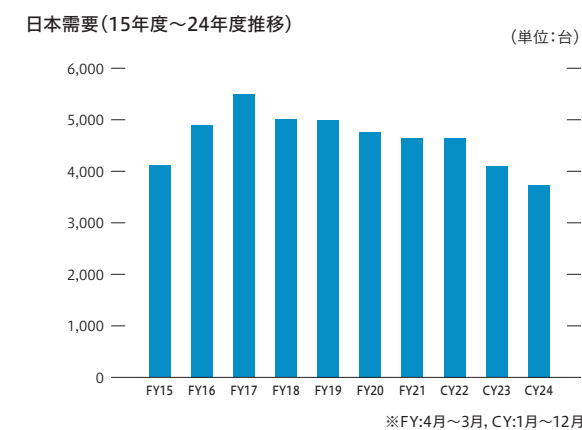
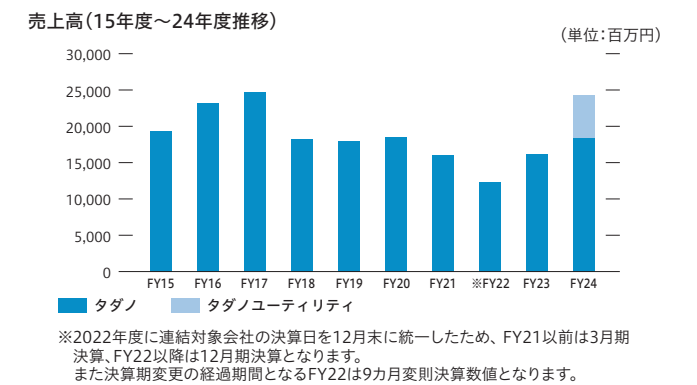
高所作業車 03 Aerial Work Platforms



》売上高・日本台数シェア

日本の需要が減少する中、トラック架装式高所作業車の拡販に加え、長野工業株式会社（現：株式会社タダノユーティリティ）の買収効果もあり、売上高は242億8千3百万円（前期比149.6%）となりました。

	23年 1-12月	24年 1-12月	比較増減	
			金額	増減率
日本	16,086	22,734	6,647	41.3%
海外	143	1,548	1,405	978.9%
合計	16,230	24,283	8,052	49.6%



》製品紹介



AT-200S



高所
作業車

eAA-9MC

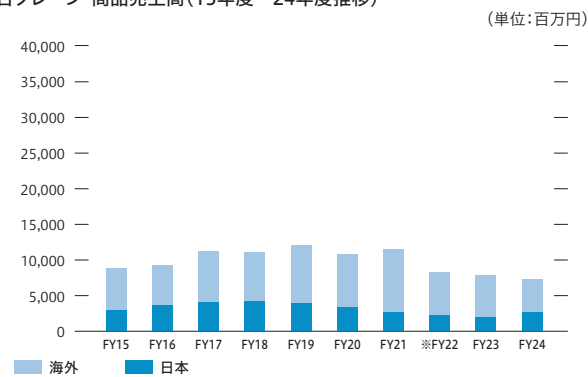
「人を乗せて作業する機械」であり、安全性、利便性、快適性がとりわけ重要になります。当社では、先進の制御技術で操作の簡便化、操作性の向上を推進しています。特に一つのレバーでデッキが垂直移動・水平移動できる世界初の「4軸協調制御」技術を搭載したスーパーデッキは、高所作業車に新しい歴史を開いた画期的な製品として高く評価されています。

その他 04 Others

》売上高

中古クレーン・商品の売上高は、71億9千9百万円(前期比93.2%)となりました。部品・修理他の売上高は、412億7千5百万円(前期比105.6%)と過去最高の売上高となりました。この結果、合計の売上高は、484億7千4百万円(前期比103.6%)となりました。

中古クレーン・商品売上高(15年度～24年度推移)



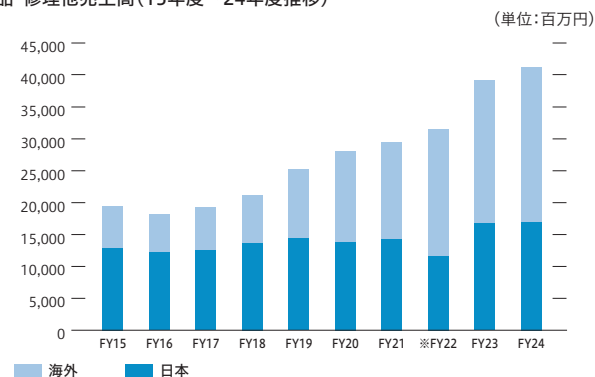
※2022年度に連結対象会社の決算日を12月末に統一したため、FY21以前は3月期決算、FY22以降は12月期決算となります。
また決算期変更の経過期間となるFY22は9カ月変則決算数値となります。



売上高(23年・24年比較)

	23年 1-12月	24年 1-12月	(単位:百万円)	
			比較増減 金額	増減率
中古クレーン・商品	7,723	7,199	-524	-6.8%
部品・修理他	39,083	41,275	2,192	5.6%
合計	46,806	48,474	1,667	3.6%

部品・修理他売上高(15年度～24年度推移)



※2022年度に連結対象会社の決算日を12月末に統一したため、FY21以前は3月期決算、FY22以降は12月期決算となります。
また決算期変更の経過期間となるFY22は9カ月変則決算数値となります。

》感動サービスの提供

クレーンのダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結するため、当社では「感動サービスの提供」に取り組んでいます。

ビフォーサービスでは、HELLO-NETを活用し、お客様、サービス工場、当社の3者間でメンテナンス状況や整備履歴を共有する、「タダノメンテナンスパック」や高度化したエンジンのメンテナンスに特化した「Tadano エンジンケアパック」の普及により、製品のダウンタイムや整備不良による故障の減少を目指しています。

アフターサービスでは、日本においては10支店と23営業所に加え、全国361カ所の認定サービス工場と854名の認定サービスエンジニアによるサービス体制を構築しています。海外では当社、グループ会社、代理店等による100カ所を超えるネットワークにより、世界をカバーしています。その他体制整備とともに進めているのが、サービスの質を高める取り組みです。現地開催だけでなく、IT技術を取り入れWEBを活用し遠隔地からでも受講を可能とした技術講習会のほか、トレーニングセンターでの体系的、かつ先端技術を取り入れた教育で、日本・海外のサービスエンジニアの人財育成を進めています。

また、VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育を導入するなど、作業中の事故防止にも力を入れています。



Topics

タダノグループは中期経営計画(24-26)にて「Reaching new heights～新たなステージへ～」をスローガンに掲げ「脱炭素化の加速」「新たな領域への挑戦」「強みを活かしたものづくり改革」「変革を支える足場固め」を成長戦略の骨子としています。

2024年度以降、タダノユーティリティ(旧・長野工業)とManitexグループの買収、IHI運搬機械・運搬システム事業取得の発表、新たな脱炭素製品の発売、ドイツ工場再編の推進と、次々に具体的な成果をあげることができています。

■アメリカ Manitek International, Inc.を買収

2025年1月、アメリカManitek International, Inc.の株式の全てを取得し、完全子会社化を完了しました。Manitek社は、Lifting Equipment事業とレンタル事業を傘下に持つ持株会社であり、ブームトラックはじめ複数のLE製品を持つManitek、ナックルブームクレーンのPM、高所作業車のOil & Steel、電動ピック&キャリアークレーンのVallaはいずれも、タダノグループのラインナップをさらに幅広く魅力的にすることができるブランドであると考え、本買収の実行に至りました。

また、タダノグループの事業ポートフォリオにおける「建設用クレーン・車両搭載型クレーン・高所作業車」という主要3セグメントのバランスという観点からは、本買収によってManitek社がグループに加わることで、将来的な車両搭載型クレーン・高所作業車のグローバルビジネス拡大につながり、よりバランスの取れたポートフォリオ構成となることも期待しています。



PM



Oil & Steel



Valla

■国際建機展への出展 bauma2025

2025年4月にドイツ・ミュンヘンで開催された世界最大級の国際建機展「bauma2025」は、日本・ドイツ・アメリカ・イタリアを中心にしたグローバルチームが、世界中の来場者に「変革を遂げるTadano」をPRするイベントとなりました。

今回のbaumaでは中期経営計画(24-26)の戦略に沿った展示を行い、「Reaching new heights」まさに新たなステージへと加速するタダノグループを来場いただく皆さまにアピールしました。

脱炭素化の加速	世界初のフル電動ラフテレーンクレーンEVOLTシリーズから、アメリカ・カナダ向けに昨年発売した「eGR-1000XLL-1」をはじめとするTadano Green Solutionsの製品群を展示
新たな領域への挑戦	2024年3件のM&Aを実施・発表。タダノユーティリティ(旧:長野工業)の自走式高所作業車や、Manitek・PMのナックルブームクレーンなど大幅に拡大したタダノグループの製品ラインナップを展示
強みを活かしたものづくり改革	欧州事業再生に関連して、日本・ドイツ双方の強みを活かし、当社が安全・品質のさらなる向上と復権を期すオールテレーンクレーンの強力なラインナップを展示
変革を支える足場固め	今後の現場における労働力不足や技術ノウハウの伝承を支えていく、新たな技術・ソリューションを提示

